

第3学年1組 道徳科学習指導案

令和8年10月6日（火）第5校時

- 1 主題名 人間らしい心の営み「思いやり」 内容項目[B 思いやり、感謝]
- 2 ねらい 人間尊重の精神に基づき、他者の状況や立場を推し量りながら、思いやりの心をもって人のために尽くそうとする態度を育てる。

教材名 「母の誘い」（出典：彩の国の道徳 自分を見つめて）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

本指導内容は、思いやりの心を持ち、相手の立場や気持ちを考えて人と接することに関するものである。人との関わりの中では、自分が相手のためによいと思って行動するだけでなく、相手がどのように感じるのかを考えながら行動することが大切である。中学生の段階では、相手の立場に立って考えることの大切さを理解していても、実際の人間関係の中では、自分の思いや考えを優先してしまったり、「相手のため」と思ってしたことが、必ずしも相手にとって望ましいとは限らなかったりすることがある。思いやりについて単に「相手に優しくすること」と捉えるのではなく、「相手のために行動するとはどういうことか」について考えを深めることをねらいとする。

（2）生徒のこれまでの学習状況及び実態について

（略）

（3）教材の特質や活用方法について

本教材は、人のために尽くすことを大切にしてきた主人公が、相手のために思って行動する中で、自分の思いが相手に伝わらず、心に「もやもやしたもの」を残す姿を通して、思いやりについて考えることのできる教材である。主人公は、「人のために尽くすこと」を大切に、相手のために一生懸命行動している。そのため、生徒は主人公の行動に共感しやすい一方で、相手の反応を通して、「自分がよいと思ってすること」と「相手の立場に立って考えること」との間にあるずれに気付くことができる。指導に当たっては、生徒が自ら考えたくなるよう、学習課題をあえて明示的に設定せず、教材との出会いから自然に問いが生まれるようにする。前半部分を中心に扱い、主人公の行動や心情を丁寧に捉えさせる。特に、「主人公はどのような人物だと思いますか」という共感的発問を通して、主人公の思いや行動に寄り添わせた上で、「なぜ主人公の心には、もやもやしたものが残ったのだと思いますか」という分析的発問を位置付ける。これらの発問を通して、主人公の行動を一面的に評価するのではなく、「主

人公は悪かったのか」「主人公も相手のために一生懸命だったのではないか」など、多様な視点から考えさせる。また、友達との話し合いを通して、自分とは異なる考えに触れ、それをもとに自分の考えを見直したり、さらに深めたりすることができるようにする。後半部分では、母親の言葉を手掛かりとして前半での話し合いを振り返り、「思いやりとは何か」という問いを自分自身の人との関わり方へとつなげていく。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 (5分)	1 ねらいとする道徳的価値についての問題意識を持つ。 (優しい人ってどんな人でしょうか。)	・困っている人を助ける。 ・助けてあげる。 ・相手の気持ちを考える。	・ここでは答えを出さずに本文に入る。
展開 (35分)	2 「母の誘い」の前半部分の範読を聞いて、教材について考える。 (1) 主人公はどのような人物だと思いますか。〈共感的発問〉 (2) なぜ主人公の心にはもやもやしたものが残ったのだと思いますか。〈分析的発問〉 《補助発問》 みなさんは主人公と似たような経験をしたことはありませんか。 《補助発問》 主人公は間違っただけを犯しましたか。〈批判的発問〉	・人に優しい人。 ・人の役に立ちたい人。 ・一生懸命やったのに、喜んでもらえなかった。 ・相手のためにしたのに、伝わらなかった。 ・相手のためにやったのに、喜んでもらえなかった。 ・手伝ってあげたが、「自分でやりたかった」と言われた。 ・人のために何かをしようとした気持ちは大切。 ・自分が良いと思うことを押し付けてしまった。	・主人公の共感できる部分を探し、共感的理解を深める。 ・繰り返し発問や補助発問を用いて、議論させる。 ・話し合い活動で、自分と友達の考えを比較させる。
終末 (10分)	3 「母の誘い」の後半部分の範読を聞いて、思いやりについて考える。 (今日の話を通して、みなさんが考える『優しさ』とはどういうものですか。)	・相手の気持ちを考えて行動すること。 ・自分が良いと思うことをするのではなく、相手がどう感じるかを考えること。	☆人のために行動するときに必要なことについて、相手の立場や気持ちを考えることの大切さを、自分との関わりの中で考えていたか。 (発表・ノート)

在籍 36名

5 他の教育活動との関連

道徳科	教材名「母の誘い」 「相手のために行動するとはどういうことか」について深く考え、他者の状況や立場を推し量りながら、思いやりの心をもって人のために尽くそうとする態度を育てる。
事後指導	本時の振り返りにおける多様な意見を、学級通信を通じて紹介する。
家庭との連携	本時の授業内容や振り返りの内容について学級通信を通じて紹介する。

6 評価の観点

- ・思いやりについて、主人公の気持ちや理由を様々な見方や角度から考えさせ、友達と意見を交流させることで、多面的・多角的に考えさせていたか。
- ・人のために行動するときに必要なことについて、相手の立場や気持ちを考えることの大切さを、自分との関わりの中で考えさせていたか。
- ・学習課題をあえて設定せず、共感的発問や分析的発問を通して、ねらいとする価値について考えを深めさせることができたか。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・相手の立場や気持ちを考えることの大切さが、自分の一面的な見方になっていないか、様々な相手の立場、境遇、環境まで推察し、考えることができたか。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・人のために行動することの大切さについて、自分本意ではなく本当の意味で相手の立場や気持ちを考え、ねらいとする価値について自分との関わりの中で考え、振り返ることができたか。

8 板書計画

○みんなが考える「優しさ」ってどういうものですか。	○なぜ主人公の心にはもはやもやしたものが残ったのだろうか。 ・一生懸命やったのに、喜んでもらえなかった。 ・相手のためにしたのに、伝わらなかった。	○主人公はどんな人物だと思いますか。 ・人に優しい人 ・人の役に立ちたい人	母の誘い
----------------------------------	---	---	-------------

8 母の誘い

3年 組 番 名前

1. 優しい人ってどんな人ですか。

2. なぜ主人公の心にはもやもやしたものが残ったのでしょうか。

3. 本日の授業を通して、感じたことを書きましょう。

